総務省地域力創造グループ過疎対策室
〒100-8926　東京都千代田区霞が関 2-1-2
TEL 03-5253-5536　FAX 03-5253-5537
https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/2001/kaso/kasomain0.htm

全国過疎地域自立促進連盟
〒101-0047　東京都千代田区内神田 1-5-4　加藤ビル３階
TEL 03-5244-5827　FAX 03-5244-5828
http://www.kaso-net.or.jp/

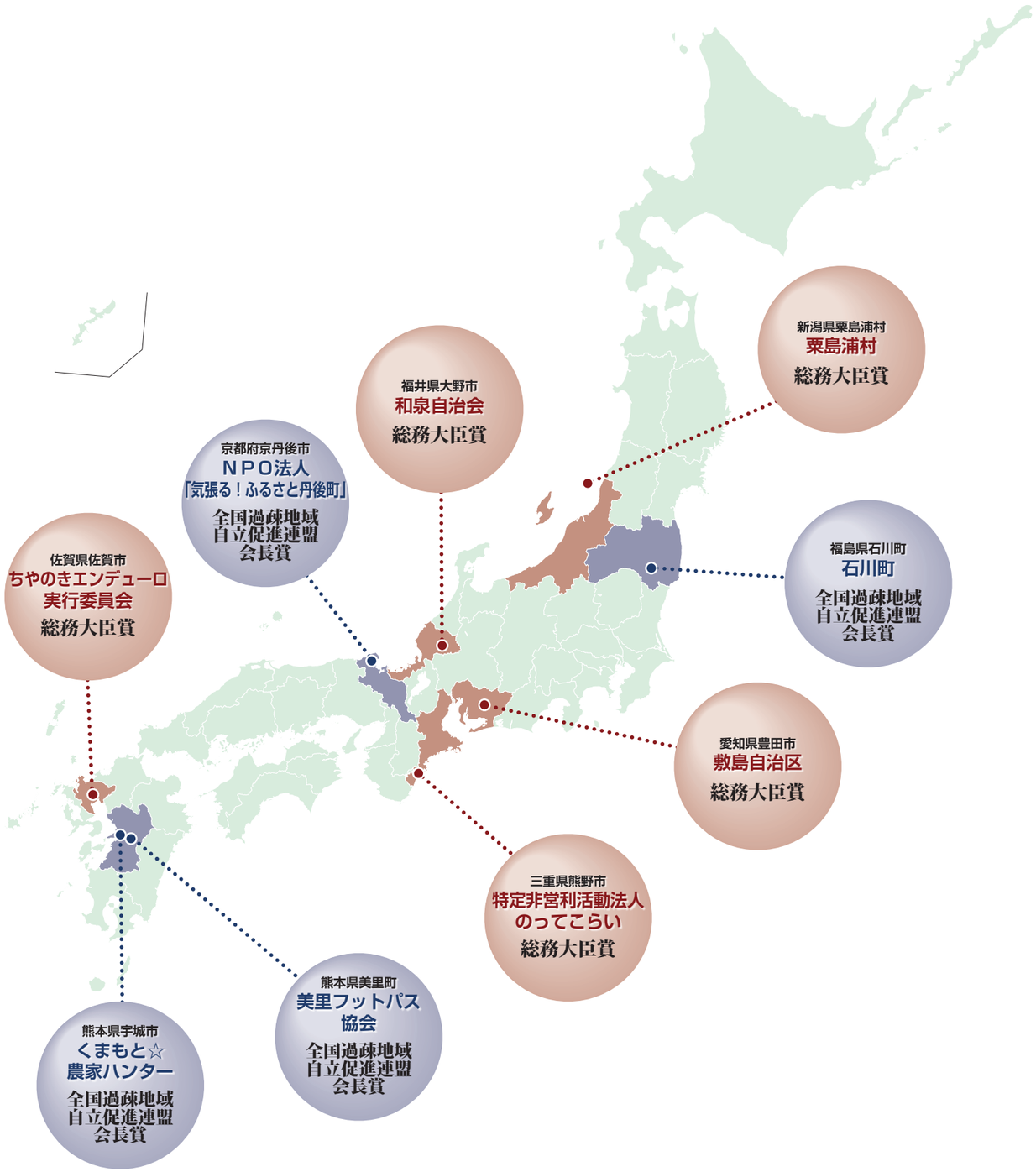
令和２年度

過　疎　地　域　自　立　活　性　化

優良事例表彰

総務省・全国過疎地域自立促進連盟

令和２年度　過疎地域自立活性化優良事例表彰受賞団体



表彰受賞団体一覧

総務大臣賞

新潟県粟島浦村
粟島浦村
育つ粟島
～人が育つ島づくり～

福井県大野市
和泉自治会
「ここに生き続けられるために」

愛知県豊田市
敷島自治区
移住者受入れで蘇る地域「しきしま」
～都市とつながり、自分たちのふるさとは自分たちで守る～

三重県熊野市
特定非営利活動法人 のってこらい
一隅を照らす
～地域住民主体で過疎地の交通サービスを守る～

佐賀県佐賀市
ちやのきエンデューロ実行委員会
“あそび”で地域おこし
～何もない山は、宝の山～

全国過疎地域自立促進連盟会長賞

福島県石川町
石川町
豊かないしかわ暮らしの創出に向けて

京都府京丹後市
ＮＰＯ法人「気張る！ふるさと丹後町」
スマホアプリで交通を支え合う国内初の取組！
住民タクシーが過疎地に笑顔を運ぶ

熊本県宇城市
くまもと☆農家ハンター
「地域と畑は自分たちで守る」
農家ハンター☆プロジェクト

熊本県美里町
美里フットパス協会
地域を元気にする魔法フットパス
～交流人口を増やすから Walkers are Welcome へ～

過疎地域自立活性化優良事例表彰制度の概要

今日、多くの過疎地域では、全国に比して著しく人口減少や高齢化が進行しており、地域活力の低下や生活環境の整備に格差が見られるなど、依然厳しい状況にあります。

しかし、近年、田園回帰の動きを始め、地域間交流の拡大、情報通信基盤整備・利活用の進展、価値観の多様化等、過疎地域を取り巻く環境は大きく変化しています。

こうした中で、過疎地域は豊かな自然環境に恵まれた生活空間を提供するとともに、地域産業と地域文化の振興等を図り、個性豊かで自立的な地域社会を構築することにより、美しく風格ある国土の形成に寄与することが期待されています。

本制度は、過疎地域の自立促進に資するため、地域の自立と風格の醸成を目指し、創意工夫により過疎地域の活性化が図られている優良事例について表彰を行うものです。

都道府県からの推薦 ≫

表彰委員による書類審査

- 地域の自立･活性化について､モデル的･先駆的取組といえるか？
- 地域資源を活用し、地域の魅力を一層高めるものであるか？
- 地域の自主的・主体的な取組であり、住民の積極的な参加・連携が図られているか？
- 都市との連携を図り、地域間交流の拡大に寄与しているか？

≫ **表彰委員による現地調査** ≫ **表彰委員会による優良事例の決定**

日　　時：**令和２年 11 月 27 日（金）13 時 30 分**
場　　所：**ホテルルポール麹町**
東京都千代田区平河町 2-4-3

令和２年度表彰委員会委員（敬称略）

委員長 **宮口 侗廸**（みやぐち としみち）
早稲田大学
名誉教授

委員 **秋田 典子**（あきた のりこ）
千葉大学大学院園芸学研究科
准教授

委員 **指出 一正**（さしで かずまさ）
株式会社 sotokoto online 代表取締役
『ソトコト』編集長

委員 **図司 直也**（ずし なおや）
法政大学現代福祉学部
福祉コミュニティ学科教授

委員 **平尾 由希**（ひらお ゆき）
株式会社 FOODSNOW 代表取締役
フードコーディネーター

委員長講評

宮口 侗廸

過去の表彰団体を時々訪ねさせてもらっていますが、この表彰が励みになってさらに前進することができたという声を多く聞くことができ、関係者として嬉しく思っています。本年度も委員会で資料と現地調査によって、総務大臣賞５団体、過疎連盟会長賞４団体を選定させていただきました。

大臣賞を北から紹介します。まず新潟県粟島浦村は、小さな離島の小中学校の活性化のために牧場をつくり、留学生が馬の世話をするしおかぜ留学を創設しました。島の豊かな自然と生きものの世話で子供たちが成長するという「いのちの教育」の留学制度が支持され、志望者は増え続けています。続いて福井県大野市への合併時に旧和泉村で結成された和泉自治会は、「生活」「産業」「人・伝統」のそれぞれのチームが活発に活動し、カフェ機能を持つ「より処」やコンビニエンスストアの開設、特産物の加工販売、旧村時代の広報のアーカイブ化など、山村の暮らしを盤石に支えています。愛知県豊田市の敷島自治区も旧旭町の豊田市への合併時に９集落の小学校区に設定された自治区で、５年ごとにプランを見直し、部会制の活動で 10 年間に 40 世帯の UI ターン移住を実現、I ターン者によるスモールビジネスの起業や都市の企業のサテライトも生まれました。この二つは今必要なすばらしい地域運営組織の見本と言えましょう。三重県熊野市の NPO 法人のってこらいは、中心部から離れた地区で公共交通空白地有償運送を開始して 10 年になりますが、会員が予約して低料金で市街地を始め希望の場所に移動できる柔軟な運行で、高齢者の見守りにも貢献しています。そして佐賀県佐賀市旧富士町のちやのきエンデューロ実行委員会は住民 34 人の茶木（ちやのき）地区でマウンテンバイクのレースを実施することによって、外部の若者が区役に参加するなど、一過性ではない強い共助の関係が生まれ、その関係が周りに波及していることが評価されました。

連盟会長賞の福島県石川町では、復元した自由民権運動の舞台だった屋敷を拠点に、県立と私立の二つの高校生が合同で自発的なまちづくりプロジェクトに取り組み、マルシェの開催、お年寄りや小学生との交流などで成果を上げ、旧小学校舎を活用したモトガッコという施設にもいつも人が集っています。京都府京丹後市の NPO 法人「気張る！ふるさと丹後町」は、やはり公共交通空白地有償運送に取り組む団体ですが、スマホで配車アプリを使って車を呼ぶという新しい仕組みに挑戦しました。低料金で多くのドライバーが参加し、電話でも依頼できることが何よりです。熊本県宇城市旧三角町に事務局を置くくまもと☆農家ハンターは、深刻化するイノシシの広範囲の被害から農家を守ろうと生まれた団体で、120 人の会員がクラウドファンディングや ICT の活用で多数のイノシシを捕獲、ジビエファームからの出荷も開始しています。同じく熊本県の美里フットパス協会は、イベントではなく地域の日常の中を歩いてもらうことが地域のおもてなしという発想で、３年間に 15 コースを整備して全国サミットを開催、コース設定の過程で地域に会話と一体感が生まれ、集落の自治力をも高めています。

本年度は、過疎問題懇談会で推奨してきた集落ネットワーク圏の地域運営組織のお手本ともいえる二つの団体が受賞され、その先進性に感銘を受けました。また過疎地域の人の輸送を背負う二つの NPO 法人の、いずれも気軽に輸送依頼ができる仕組みには大きな価値を感じます。そして地域の持つ価値を外部の人と共に高める取組みが、しおかぜ留学、マウンテンバイク、フットパスの事業であり活動です。さらに二つの高校の協働は新鮮で、農家ハンターの活動からはイノシシに負けないパワーを感じます。人材が限られる過疎地域での、これらの多彩な取組みに対し心から敬意を表し、講評とさせていただきます。

総務大臣賞

粟島浦村（あわしまうらむら）

育つ粟島
～人が育つ島づくり～

しおかぜ留学生を含む粟島浦小中学校全児童生徒は、伝統的にソーラン節（島っこソーラン）を踊る。粟島の各行事やイベントの中で、島民や観光客へ披露する。その中で留学生も島の子供になる自覚が促されていく。

●事例の概要

過疎・高齢化が進む粟島浦村では、小中学校の児童生徒数が減少傾向にあり、平成 24 年に将来の予測を行ったところ、平成 30 年には島内中学生が２名になるという結果を受け、平成 25 年度より島外の児童生徒を受入れる「しおかぜ留学」を行っている。

しおかぜ留学では、小規模離島ならではの「暮らし」の体験や、馬の飼育活動を通した「命の教育」、島の豊かな自然に親しみながら取組む「環境学習」、地域行事やイベントへの参加、地域の中でのさまざまな体験を通した「キャリア教育」等の特色ある教育が行われている。教育の中では、島民のお手伝い等を通して、生徒ら自身の経験とともに、地域の住民としての役割を担う人材としても一役担っている。

留学生の中には将来は粟島浦村で暮らしたいという留学生や、しおかぜ留学の卒業生が村の成人式に出席する等、交流人口の拡大、島全体の活性化をもたらしている。

あわしま牧場で提供される、教育プログラムの様子。朝は６時から牧場で馬の世話を行い、夕食前にも活動を行っている。スキルに合わせて乗馬も行い、しおかぜを浴びながら爽やかに日々を過ごす。生き物の世話は大変だが、まさしく命の教育を通じて、かけがえなのない経験をすることになる。

●評価のポイント

粟島浦村では唯一の小中併設校の児童生徒数が平成 24 年度に 11 名となり、翌年一桁になることから、平成 25 年度からしおかぜ留学の実施を決めた。島にはかつて野生馬がいたことから、特色として馬とのふれあいによるいのちの教育をアピールしている。

平成 25 年度は留学生６人に移住者の子供３人を加えて児童生徒数は 17 人となり、留学生は朝６時と夕方４時の餌やりを始め馬糞の始末や馬小屋の掃除に加え、乗馬の練習にも励むようになった。平成 29 年度からは牧場が教育委員会の管理となり、全国乗馬倶楽部振興協会 OB に本格的指導を依頼し、留学生のみならず、馬の専門家を目指す牧場配置の地域おこし協力隊を含む男性１名、女性３名のスタッフを指導している。

留学費用は年間 60 万円で、食費・修学旅行費を含む。令和２年度の留学生は 20 名で、中学男子６名は男子寮、中学女子８名は女子寮、中学女子３名と小学女子３名は里親施設に振り分けられている。男子寮は地域おこし協力隊員、女子寮は保育士 OG、里親施設は協力隊 OG が、それぞれ管理人となっており、いずれもＩターン者である。留学生の定員はこの寮等のキャパシティによるため、令和２年度は里親施設の開設で増やすことができ、11 人の募集に対し 30 人の応募があった。その結果、中学は複式から各学年１クラスに戻った。

留学生たちの多くは、中学生にもかかわらず、島の自然の価値と生き物の世話の楽しさ、さらには島の人のあたたかさについて、声を揃えて語っている。毎日の早朝からの馬の世話は全く苦にならないという。将来の職業についても、獣医、乗馬インストラクター、生き物にかかわる仕事、看護師などを希望しており、これも命の教育の真価を示している。寮では全員が明るく応対してくれたことからも、いい日々を過ごしていることがうかがわれた。昨年度の村の成人式では、島出身者２名に加えて、成人を迎えたしおかぜ留学１期生２名が両親とともに島の成人式に参加した。

多くの過疎地域で山村留学等が実施され、自然や農家からの学習が設定されているが、ここでは関係者の努力で、島の豊かな自然に、馬の飼育という命の教育の価値がさらに上乗せされている。このしおかぜ留学事業は、直ちに定住人口を増やすものではないが、この島の命の教育の場で過ごすことにより、子供たちが都市では身につかない生きる力を蓄えて巣立っていくことは、国にとっても大きな価値である。留学希望者が増える傾向にあることも踏まえ、極めて高く評価できる。

粟島浦小中学校は、ほとんどの学年で複式学級となっている。授業に参加する児童生徒自体の数が少ないため、教諭からのマンツーマンに近い丁寧な指導を受けることができる。

寮での集団生活は、携帯電話の禁止や就寝時間など多くの決まりがある。食事の提供は寮母が行うが、基本的な清掃や洗濯は自分達で行う。留学生は親元から離れていながらも、両親のありがたみを知る。

留学生は学校生活のみならず、多くの地域行事に参加する。地域が行う村内のゴミ拾いウォークにも、積極的に参加し、村内の美化と地域との触れ合いを行う。

DATA 新潟県 粟島浦村（あわしまうらむら）

団体名▶粟島浦村
所在地▶〒 958-0061 新潟県岩船郡粟島浦村字日ノ見山 1513-11
連絡先▶ TEL：0254-55-2111　FAX：0254-55-2159
E-mail：seisaku @vill.awashimaura.lg.jp
URL：http://www.vill.awashimaura.lg.jp/

【交通のご案内】
粟島浦村は離島のため、定期船が運航する「岩船港」からはフェリーまたは高速船となります。
自動車▶日本海東北自動車道　神林岩船港 IC より岩船港まで５分
鉄　道▶ JR 羽越本線を利用
村上駅からタクシーにて岩船港まで約 20 分
※乗合タクシーあり
航　路▶岩船港から普通船フェリーニューあわしまで約 90 分
高速船きららで約 55 分

● 国勢調査人口　（単位：人）

市町村名	昭和 35 年	昭和 55 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
粟島浦村	825	595	449	438	366	370

●人口増減率　（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
粟島浦村	-55.2	-37.8	-17.6	-15.5	1.1

● 高齢者・若年者比率（H27 年）　（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
粟島浦村	40.5	8.9

総務大臣賞

和泉自治会（いずみじちかい）

「ここに生き続けられるために」

空き店舗を活用して、飲み物、軽食を提供する地域住民の交流の場『より処（よりどころ）』を開設し、毎週水曜に地域住民の手で運営している。和泉診療所と連携して、医師や保健師による健康づくり講座も行われる。

●事例の概要

和泉自治会では、地域住民の度重なる会議により策定した「和泉地区地域づくり計画」に基づき、「生活」、「産業」、「人・伝統」の３つのチーム体制で、地域課題の解決に取組んでいる。

「生活」チームは、最寄りの日用品販売店舗の撤退による不便を解消するため、コンビニエンスストアの誘致や空き店舗を活用した交流の場「より処」の創出をするなど、生活に対する取り組みを展開している。

「産業」チームは、和泉自治会 100% 出資で「（株）九頭竜の贈り物」を設立し、住民が育てる野菜、採集した山菜、雪乃下穴馬かぶら等の地元食品の仕入、加工、販売を行う等、和泉に立脚したビジネスとなるように取組んでいる。

「人・伝統」チームは自治会の HP や Facebook による和泉地区の情報発信を行っている。また、旧和泉村時の広報誌 48 年分をデータ化するなど、和泉地区の伝統継承にも取組んでいる。

和泉地区が住み続けられる地域であるために、各チームの発案を地域住民が主体的に実行することで、地域力・市民力の向上に繋がっている。

和泉地区唯一の日用品販売店が閉店した後、地域住民の日常生活の利便性を向上させるため、地元区長会、地元企業と共にコンビニエンスストアを誘致した。

●評価のポイント

旧和泉村は九頭竜川の最上流にあり、平成 17 年に中流の大野市と合併した。合併時に和泉地区を埋没させないために和泉自治会を結成したが、当時 669 人の人口は、平成 27 年国調では 471 人に減った。和泉自治会はその後危機感を持ち、平成 24 年から 25 年にかけて「和泉で語ろう会」を 9 回実施、さらにその意見を実行に移すために企画会議を 12 回開催、各集落への説明と区長会の了承のもと、平成 26 年に「ここに生き続けられるために」と題する和泉地区地域づくり計画をまとめた。平成 27 年から現会長のもとで「生活チーム」「産業チーム」「人・伝統チーム」の３つの活動グループの体制が活発に動き出した。

「生活チーム」は平成 26 年末に雑貨店が閉店したのを受けて、市内の精肉店と福井県民生協の移動販売を交渉、豪雪の年も含めて途切れなく販売は続いている。平成 28 年には旧 JA の空き店舗を借り受け、手づくりのリフォームで必要な道具を持ち寄ってカフェ機能をもつ「より処」を開設、女性ボランティアの世話で水曜日にランチも提供するようになった。ここではお話会の開催があり、診療所との連携で健康づくり講座や、保健師による健康チェックも行われている。さらにファミリーマートが過疎地域にも出店していることを知り、交渉の末昨年 8 月に道の駅の市の建物の一角で開業し、品揃えから地元の人にも喜ばれている。

「産業チーム」は農水省の山村活性化支援交付金を活用して準備を進め、自治会の全額出資で（株）九頭竜の贈り物を設立、市から加工場の譲渡を受け、穴馬かぶら、山菜、きのこなどの特産品を道の駅中心に出荷するようになった。

「人・伝統チーム」は自治会の HP をつくっているほか、平成 30 年から旧和泉村時代の村の広報誌のアーカイブ化に取組み、48 年間の広報をスキャナーで電子化の作業を続け、この秋には完了の予定である。伝統的なワザの継承としては、栃の実のあく抜きなどに挑戦している。伝承の昇龍太鼓の活動と青葉の笛の会とのコラボなども支援している。

会長は 67 歳、３人のチームリーダーは 62 歳、53 歳、49 歳と、奥地の自治会にしては働き盛りの世代が中心になっていて、チームにはそれぞれ６～８人のコアメンバーがいる。自治会と称するものの、旧来の自治会タイプではなく、過疎問題懇談会で提唱してきた集落を超える地域運営組織の理想形に近い。活動そのものはすべてボランティアであるが、地域愛に裏打ちされた意気込みが感じられ、しかもシステム的にうまく展開している点は、旧村を単位とする奥地山村としては極めて貴重な存在であり、高く評価できる。

食文化を伝承するため「栃の実灰汁抜き教室」を開催。名人の作業の様子を撮影し、DVD を作成して伝統的な手法を次世代に伝える取り組みを行っている。

和泉地区の特産作物である「穴馬かぶら」を、冬季間、雪の積もった土の中で寝かせることで、甘みの強い「雪乃下 穴馬かぶら」として　ブランド力の強化に取り組んでいる。

和泉地区の歴史を残し、後世に伝えるため、旧和泉村が発行していた「広報いずみ」をスキャナーでデータ化することに取り組んでいる。

DATA　福井県 大野市（おおのし）

団体名▶和泉自治会
所在地▶〒912-0205 福井県大野市朝日１７－５（和泉公民館）
連絡先▶TEL：0779-78-2110　FAX：0779-78-2840
E-mail：izumi-k@city.fukui-ono.lg.jp
URL：http://www1.vipa.ne.jp/~izumi-jichi/index.html

【交通のご案内】
自動車▶中部縦貫自動車道　大野ＩＣより 40 分
国道 158 号　大野市街より 40 分／白鳥 IC より 40 分
鉄　道▶ＪＲ北陸本線、ＪＲ九頭竜線を利用
金沢駅から福井駅まで 50 分
福井駅から１時間 30 分

● 国勢調査人口　（単位：人）

市町村名	昭和 35 年	昭和 55 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
大野市（旧）和泉村	5,266	1,478	751	669	541	471

●人口増減率　（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
大野市（旧）和泉村	-91.1	-68.1	-37.3	-29.6	-12.9

● 高齢者・若年者比率（H27 年）　（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
大野市（旧）和泉村	42.0%	8.7%

総務大臣賞

敷島自治区

移住者受入れで蘇る地域「しきしま」
～都市とつながり、自分たちのふるさとは自分たちで守る～

空き家見学、移住者訪問などを行う「暮らしの参観日」、「空き家片付け大作戦」などのイベントを通じ、空き家活用が推進されている。

●事例の概要

敷島自治区は、豊田市内で過疎化、高齢化の著しい旭地区（旧旭町）にあり、危機感から2010年に将来ビジョン「しきしま・ときめきプラン」を策定し、都市との交流、移住者の受入れを柱としたプランは５年ごとに見直され、計画推進のための組織体制、評価の仕組みなど自立した自治が営まれている。

移住者の受入れを柱として取組んできたことで、プラン策定から10年間の移住者はＵＩターン者の目標の２倍にあたる移住者を受入れを達成した。子育て世帯が多く移住してきたこともあり、旭地区は移住先進地として注目されている。また、空き家活用を企業に広げ、サテライトオフィスや古民家カフェの誘致にも成功している。

プランの成果として、徹底的な空き家活用や住民自らの主体的な関係人口活動に繋がっている。ＵＩターン者においては、スモールビジネス起業が相次いでおり、地域内での経済循環につながるなど在住者との濃い関係性と、地域の活力を生み出している。

しきしま　暮らしの作法

私たちは、しきしまを豊かな暮らしの場として
未来につなぐことを決意し、
しきしまを愛する全ての人々と温かく迎え入れます。
ここに暮らしの作法は十か条を定め、これを守ります。

第一条　家、田畑、山林は地域共有の風景と考えよう。
第二条　家の周りをきれいにして暮らそう。
第三条　空き家を放置するのはやめよう。
第四条　田畑や山林を荒らさず、生業の種を育てよう。
第五条　高齢者が生涯現役で暮らせるよう支えあおう。
第六条　子ども達は地域の宝、よその子も大切に育てよう。
第七条　歴史や伝統文化を地域の誇りとして守ろう。
第八条　あいさつを励行し、安全安心な地域をつくろう。
第九条　自分でできないことは、みんなで助け合おう。
第十条　地域の未来のために何ができるか考え行動しよう。

令和二年三月　敷島自治区

住民の総意で策定された「しきしま暮らしの作法」は、事業所を含む全戸に掲出され、空き家活用による移住者受入れなどの気運の醸成に役立っている。

●評価のポイント

敷島自治区は、豊田市への合併時に、旧旭町内の敷島小学校区（当時）の９集落を範域とし、当初は、敬老会や盆踊りなど、集落単位では行えない行事を担う組織だった。そこに2009年、市のプロジェクトを機に、都市部出身の若者10名が空き家に移住。地元は当初は半信半疑だったが、若者たちが主体的に活動に関わる姿に、「まず、自分たちが地元の将来像を描けていないと」という機運が住民から生まれ、プロジェクトチームを立ち上げ、「しきしま・ときめきプラン2010」を策定。都市住民との交流を増やす「しきしまサポーター」制度や「週末ファーム」、一人暮らしの高齢者を支える「集いの家」の整備などを打ち出した。

次第に住民の意識が変わってきたことから、「しきしま・ときめきプラン2015」の策定を機に、６つの専門部などに組織を組み直し、課題解決型で事業を実行する自治区運営を本格化させた。また、プランの理念をコンパクトにまとめた「しきしま暮らしの作法」を全戸配布し、地域が進む方向が理解されると、空き家の提供など活動に協力してもらえる雰囲気も生まれてきた。

敷島地区の地域づくりの特徴は、地域住民など各主体が活動を展開し、自治区組織は黒子役に徹する点にある。さくら村の「ガキ大将養成講座」、福蔵寺ご縁市など多彩なプログラムや移住者が起業したスモールビジネスを通じて、2019年度の交流人口は延べ5000人にのぼる。こうして都市とつながる関係人口の中から、暮らしの参観日（空き家見学会）などの機会を通して、地域が元気に持続できるような移住者を、自治区が責任をもって選び受け入れ、この10年間で40世帯、96人の移住者を呼び込み、近年では地元出身者のＵターンも目立つ。また企業とも理念や方向性を丁寧に共有した連携が次第に本格化し、古民家カフェやサテライトオフィスへの空き家活用が実現しつつある。

それでも区民の減少は続き、10年後には800人を下回る見通しの中で、山村地域再生への新たなステップに挑戦すべく、プラン2020を策定。その中で、少人数社会での暮らしを支え合うシステムの構築や都市住民が買い支える農地保全、集落行事や組織の再編を図る３つの重点プロジェクトを設定し、未来志向を打ち出す。

敷島自治区のこの10年のプロセスには、地域を開いてここに暮らす価値をさまざまな主体と共有し、今なすべきところを着実に形にし、それを未来につなぐ姿勢が一貫して見出せ、過疎地域の地域づくりの王道として高く評価したい。

５年ごとに見直される「しきしま・ときめきプラン」は、全戸アンケート、意見公募、公開討論などにより、住民の総意で策定され、活動の指針となっている。

関係人口の拡大を目標に、自治区支援の下で、「ガキ大将養成講座」など多くの農都交流が行われ、年間交流人口は、延べ5,000人を数える。

空き家交渉は、各集落選出の定住推進員が中心となって行う。交渉成立に５年がかかることもあり、粘り強い交渉が必要となる。

DATA　愛知県 豊田市（とよたし）

団体名▶敷島自治区
所在地▶〒444-2816 愛知県豊田市杉本町奥西山49（敷島会館）
連絡先▶TEL：0565-68-3100
E-mail：tatsuyoshi.suzuki@gmail.com

【交通のご案内】

自動車▶東海環状自動車道　豊田勘八ICより約30分
東海環状自動車道　豊田松平ICより約30分
猿投グリーンロード力石ICより約30分
鉄　道▶名鉄三河線を利用
豊田市駅からとよたおいでんバス旭・豊田線（小渡行）70分、旭・足助線（足助病院行）10分、杉本下車徒歩２分
飛行機▶中部国際空港（セントレア）から鉄道または空港バスで名鉄豊田市駅まで約１時間

● 国勢調査人口　（単位：人）

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
豊田市（旧）旭町	7,452	4,446	3,504	3,533	2,976	2,692

●人口増減率　（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
豊田市（旧）旭町	-63.9	-39.5	-23.2	-23.8	-9.5

● 高齢者・若年者比率（H27年）　（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
豊田市（旧）旭町	43.8	12.1

総務大臣賞

特定非営利活動法人（とくていひえいりかつどうほうじん） のってこらい

一隅を照らす
～地域住民主体で過疎地の交通サービスを守る～

この取組が高齢者のニーズに合致し、地域でたくさんの方が利用している。
取組は拡がり運行区域拡大に伴いクラウドファンディングで新しい車両も購入した。

●事例の概要

過疎・高齢化が進む、熊野市五郷町で集落の課題であった交通空白地等の交通不便問題に対し、地域住民自らが立ち上がり、平成 22 年からＮＰＯ法人を設立し、公共交通空白地有償運送の制度を活用し、地域が主体となって交通サービスを運行している。

ＮＰＯ法人の理事や役員は地域の自治会長や婦人会、老人会など地域の代表者が務めることで、地域内での利用周知や住民の要望の反映ができている。平成 22 年から 10 年続いてきた取り組みだが、平成 23 年、平成 28 年には運行範囲の拡大を行い、地域住民の要望に応えるとともに、市の交通政策の担い手として大きな役割を果たしてきた。また、一人暮らし世帯の見守り活動としての役割も果たしている。

運行範囲の拡大の際に、車両の追加購入が必要となったが、ふるさと納税のガバメントクラウドファンディング制度を活用して購入するなど、全国から共感を得られている取り組みである。

利用者の方はドライバーとの会話も楽しみながら、のってこらいを利用している。
ドライバーは利用者の方が乗車するまで外で安全を確認を行う。

●評価のポイント

三重県熊野市は、世界遺産に登録された熊野古道、美しい棚田、リアス式海岸など、歴史と文化、豊かな自然に恵まれた地域である。古くから人が行き交う場所であったためか、外に開かれた明るい雰囲気の町である。早朝に町を散歩していると、すれ違う子どもからお年寄りまで誰もが「おはようございます！」とごく自然に声をかけてきてくれる。花の窟神社では見知らぬ地元の方が丁寧に歴史を説明してくださった。このような熊野市の中で「特定非営利活動法人のってこらい」が活動しているのは、中心部から離れた過疎化が進んでいる人口 682 人の五郷（いさと）地区である。

のってこらいは、公共交通空白地有償運送のための団体であり、平成 22 年 4 月に設立された。設立当初は地域に対して熱い想いのあるドライバーの人柄によって、活動が牽引された側面も少なくない。クラウドファンディングを利用した車両の購入など、先進的な取り組みもなされてきた。しかし、残念ながら平成 30 年にドライバーの方が急逝される。五郷地区におけるのってこらいの真価が問われたのはこの時点であったと考えられる。NPO 法人のメンバーはすぐさま新たなドライバーを地域の中から発掘し、活動が途切れないように対応をしている。既にのってこらいは地域において欠かせない公共交通に成長していたと言えよう。地域の交通需要を踏まえると、ドライバーが 1 名というのは妥当な数である。しかし、ドライバーの方が旅行に出かけたり、老人会など一度に多くの人が集まる場合には、他の登録ドライバーが車を出して地区全体としてうまく回るように配慮がなされている。

のってこらいの高く評価できる点は、このように目に見えない形で地域全体がその活動をしっかりと支えている点にある。会員は令和元年時点で 146 名であり、このメンバーには高齢の利用者だけでなく、この仕組みをサポートしたいという想いのある若い世帯も含まれている。また、新たなドライバーの方も「自分の親に十分に親孝行できなかったから。」と高齢者を単に車で運ぶだけでなく、のんびりと買い物を待ったり、玄関に一番近い場所に工夫して車を停めるなど、公共交通空白地有償運送の枠を超えた温かな暮らしのサポートをしている。地区全体が大きな１つの家族のような仕組みに深く胸を打たれた。過疎地の支え合いの形として高く評価できるものである。

平成 22 年 6 月に地域の方々が尽力したことで、公共交通空白地有償運送がはじまった。

のってこらいが運営を継続していることで、高齢で車の運転ができない方も安全・安心に地域の店舗に買い物に来ることができるため、愛着ある故郷で暮らし続けることができる。

事務所には、のってこらいの役員が訪れて会計作業などを行ったりするとともにコミュニティの場所にもなっている。

DATA 三重県 熊野市（くまのし）

団体名▶特定非営利活動法人　のってこらい
所在地▶〒 519-4674 三重県熊野市五郷町桃﨑 521-1
連絡先▶ TEL：090-1596-8695
【交通のご案内】
自動車▶東名阪自動車道千音寺 IC より約２時間 30 分
南阪奈自動車道葛城 IC より約３時間 30 分
近畿自動車道紀勢線すさみ南 IC より約２時間
国道 311 号　和歌山県白浜より約２時間
国道 42 号　和歌山県串本より約１時間 30 分
鉄　道▶紀勢本線ワイドビュー南紀を利用
名古屋から熊野市まで約３時間
紀勢本線特急くろしお、紀勢本線普通列車を利用
大阪天王寺から和歌山県新宮市まで約３時間 40 分
和歌山県新宮市から熊野市まで約 30 分

● 国勢調査人口　（単位：人）

市町村名	昭和 35 年	昭和 55 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
熊野市	30,586	26,062	20,898	19,607	19,662	17,322

●人口増減率　（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
熊野市	-43.4	-33.5	-17.1	-11.7	-11.9

● 高齢者・若年者比率（H27 年）　（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
熊野市	36.9	10.6

総務大臣賞

ちやのきエンデューロ実行委員会

“あそび”で地域おこし
～何もない山は、宝の山～

大会スタッフ及び参加者集合写真。地域住民が何もない、と思っていた山に魅力を感じる大勢の若者がいる。

●事例の概要

佐賀市富士町苣木（ちやのき）地区では高齢化、過疎化が著しく、山間部に位置する同地区において、地域の草刈り等の区役（くやく）と呼ばれる集落維持活動は地域住民の大きな負担となっていた。

そのような中、自由にマウンテンバイクを走らせることができるコースを求めていた地区外の若者は、区役に参加する代わりに山間部にコースを作る場を提供してもらった。地域住民と交流を深めていきながら、山間部に作成したコースを利用し「ちやのきエンデューロ」という大会を開催。同大会の運営は区役に参加した若者と、地域住民が協働して運営しており、全国からライダーが集まっている。「苣木地区には何もない」と思っていた地域住民にとっても、「苣木地区には宝の山がある」という認識と自信に繋がるとともに、近隣の温泉街での前夜祭開催などによる宿泊客数の増加にも貢献しており、地域の活性化に寄与している。

高齢者が多い苣木地区の住民にとって若者の支援は大きな助けとなっており、今まで数日かかっていた区役が半日程度で終わるようになった。

●評価のポイント

「ちやのきエンデューロ実行委員会」は地域の人と、外からやってくる関係人口がつながる、優れた「関係案内所」を有している。佐賀県佐賀市富士町の苣木（ちやのき）地区の人口は現在 34 人。高齢化と人口減少が進む中、「区役」が大きな負担となっていた。一方で、登山者などに危険と見なされがちなマウンテンバイクで遊べる場所を九州内に探していた若者たちが、マウンテンバイクのコースとして、地域内の山林内を気兼ねなく遊べる場とする代わりに、「マウンテンバイク友の会」のメンバーを中心とした 20 代、30 代の若者が、年 3 回の「区役」に自発的に参加することになった。これまで3日かかっていた作業が半日で終わるようになるとともに、双方の心理的な距離が縮まり、安心感が芽生え、地域の人と若者との信頼関係が築かれていったところは大きい。言うなれば、お互いの「悩み」と「ないもの」と「弱さ」を交換し、増補を行った好例といえる。今では SNS で募集をかけると、メンバーのみならず、その情報を周辺でキャッチした人までも「区役」に参加するようになったということが、この関係性とプロジェクトの楽しさの伝播を象徴している。

「ちやのきエンデューロ」はマウンテンバイクによるレースの大会だが、一方向のイベントではまったくない。スポーツによる地域づくりやまちおこしのイベントが、参加者を迎え入れる地域側の過度な負担や疲弊のみでマイナスに着地することが多く見受けられる中で、この双方のフラットな共助の関係性が築き上げられている点を強く評価したい。苣木地区の住民は、「読めない地名と言われる苣木がテレビなどのメディアでも ” ちやのき “ と音になって取り上げられ、活気づいた。私たちも何気なく地域にあるもののよさに気づく視点がもらえた。誇りと元気をいただき、感謝している」と話し、「区役」に参加する若者は「苣木に関わることの楽しさは、地域の方が何より僕たちを受け入れてくれている、迎え入れてくれているということが一番うれしい」と返す。気持ちの通じた信頼の関係性がこちらにもよく伝わってきた。苣木地区は、地域を盛り上げる重要な３つのキーワードである「関係人口」「関係案内所」「関係案内人」の揃ったところと言えよう。今後の苣木地区の大きな目標のひとつが農業の活性化。主産業の米だけでなく、ジャンボピーナッツやいせいも、茶などの特産物の収穫体験や援農、販売、獣害対策など、地域の人と若者の協働がこの分野でも始まっていくことにも期待したい。苣木を訪れた若者が古湯に宿泊するなど、エリアリノベーションの萌芽を感じさせる、ゆるやかな地域のコミュニティが生まれている。

区役に労働力を提供する代わりに、遊び場を求めていた若者が、地域の山林を自由に使わせてもらい、マウンテンバイクのコースを作成した。

地域と若者の間に信頼関係が生まれ、地域からせっかくコースがあるのだから大会を開いてみてはどうか、という提案が出てきた。

若者と地域住民が一体となり、地区の公民館に大会事務局を設置し、運営している。

DATA 佐賀県 佐賀市（さがし）

団体名▶ちやのきエンデューロ実行委員会
所在地▶〒 840-0501 佐賀県佐賀市富士町大字古湯 3132 番地 2
連絡先▶ TEL：(0952) 58-3038
E-mail：info@cleat-bicycle.com
【交通のご案内】
自動車▶長崎自動車道　佐賀大和 IC より約 15 分

● 国勢調査人口　（単位：人）

市町村名	昭和 35 年	昭和 55 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
佐賀市（旧）富士町	10,150	6,382	5,116	4,774	4,359	3,979

●人口増減率　（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
佐賀市（旧）富士町	-60.8	-37.7	-22.2	-16.7	-8.7

● 高齢者・若年者比率（H27 年）　（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
佐賀市（旧）富士町	40.8	6.7

全国過疎地域自立促進連盟 会長賞

石川町（いしかわまち）

豊かないしかわ暮らしの創出に向けて

きらら夏祭りに合わせて、鈴木重謙屋敷で実施した「涼マルシェ」。

●事例の概要

石川町では自由民権史跡として復原した町重要文化財「鈴木重謙屋敷」及び旧石川小学校を減築リノベーションした「モトガッコ」をまちなかの拠点としてまちなか再生事業に取組んでいる。「鈴木重謙屋敷」では、町内の県立石川高校、学法石川高校の有志生徒が「まちのリビングプロジェクト」ワークショップを開催し、より多くの方に利用してもらうための方法や周辺の整備イメージの検討のほか、高校生の企画によるイベントの開催、まちなか情報新聞の取材・編集を行っている。

「モトガッコ」は図書館や音楽室、屋内遊び場などを併設した、文教福祉複合施設である。この施設の運営にあたり、町民参加による持続可能な運営体制の構築に向けた運営ワークショップを実施し検討を行っている。また、運営ワークショップの「コアメンバー」を中心に、オープンスペースでカフェの運営や「モトガッコサポータークラブ」の立ち上げなど、行政と町民のパートナーシップによる運営を目標に各種事業に取組んでいる。

「モトガッコ」の運営を考える町民ワークショップ及び勉強会。

●評価のポイント

石川町には自由に議論を行える場がふたつ、プレイスメイキングの手法で同時に育っているところが注目に値する。まずひとつが復原された鈴木重謙屋敷跡。解体文化財が再生され、町内の県立石川高校と学法石川高校の生徒たちがこの場所を拠点にし、自発的なまちづくり「まちのリビングプロジェクト」（以下、まちプロ）に取り組んでいる。まちプロに参加する高校生からは、この場所と石川町に対する優しい愛がひしひしと伝わり、まちプロの OB の大学生からも実体験に基づいた自信と成長の言葉があふれていた。マルシェの開催や、お年寄りや小学生との交流会や勉強会など、いずれもやらされ感や単発の打ち上げ感がなく、個別のプロジェクトにも綿々とした積み上げが見てとれ、高校３年生から１年生までが、教え合い、バトンを受け渡ししながら、持続可能で元気なプレイスメイキングを実践している。また、この場所が本来、あまり行き来のなかった２つの高校の生徒間のパーソナルな交流にもつながっているところが意義深い。

ふたつめは、旧石川小学校をリノベーションしたモトガッコ。減築という手法を使用した注目の建築物でもあり、図書館や音楽室、赤ちゃん広場などを併設した複合施設としてオープンした。モトガッコは石川町の住民のみなさんの参加によるワークショップの積み重ねから施設の方向性が整い、コアメンバーが生まれ、「モトガッコサポータークラブ」が設立され、民間による運営の前向きな兆しが見え始めている。週末になるとコアメンバーでカフェをオープンし、高齢者や障害のある人など、おしゃべり相手を探していたり、ゆっくりと過ごしたい人たちの格好の居場所になっており、石川町らしい等身大のサードプレイスを生み出している。石川町にはそれぞれの地域でコミュニティがあり、表立ってはいないが、小さなグループが楽しく活動している。その個々の活動のハブにモトガッコがなっていく可能性は高い。

鈴木重謙屋敷跡とモトガッコ、このふたつの場所に深く関わっているのが石川町企画商工課であり、その真摯なまちへの思いが、点と点の場所をつなぎ、面に広げていくエリアリノベーションを進めていく重要な要素であり、強みだろう。

まちプロの高校生たちと、モトガッコの「モトガッコサポータークラブ」のみなさんとの議論の中から、オリジナルのタンブラーという素敵な商品も完成した。ここには「議論」を通じての多世代の良好な関係性が現れている。何かを自分でもやってみたいと思わせてくれる「関わりしろ」が満点の、ざらっとしたふたつの施設を起点にして、石川町のことを深く好きになる人が内外に増えていくことを願っている。

鈴木重謙屋敷で行われる高校生による打ち合わせ会の様子。

クリスマスシーズンにあわせたイルミネーション点灯イベント。

高校生と町民組織のメンバーのコラボレーション企画で誕生した「オリジナルタンブラー」。

DATA 福島県 石川町（いしかわまち）

団体名▶福島県石川町役場
所在地▶〒963-7893
連絡先▶TEL：0247-26-9113　FAX：0247-26-0360
E-mail：E-mail：syouko_k@town.ishikawa.fukushima.jp
URL：http://www.town.ishikawa.fukushima.jp

【交通のご案内】

自動車▶東北自動車道白河 IC より 45 分
東北自動車道須賀川 IC より 30 分
あぶくま高原道路石川母畑 IC より 10 分
常磐自動車道いわき湯本 IC より 60 分

鉄　道▶JR 東北新幹線、水郡線を利用
東京駅から郡山駅または新白河駅まで１時間 20 分
郡山駅から磐城石川駅まで 50 分

飛行機▶大阪伊丹から福島空港まで１時間
新千歳空港から福島空港まで１時間 15 分
福島空港から車で 15 分

● 国勢調査人口　（単位：人）

市町村名	昭和 35 年	昭和 55 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
石川町	24,493	21,731	19,914	18,921	17,775	15,880

●人口増減率　（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
石川町	-35.2	-26.9	-20.3	-16.1	-10.7

● 高齢者・若年者比率（H27 年）　（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
石川町	32.81	10.97

全国過疎地域自立促進連盟 会長賞

NPO法人「気張る！ふるさと丹後町」

スマホアプリで交通を支え合う国内初の取組！ 住民タクシーが過疎地に笑顔を運ぶ

高齢者がスマホでアプリを使い「ささえ合い交通」を配車すると自宅まで迎えに来る。マイカーとスマートフォンを使うため、自宅や外出先などどこでも待機でき女性ドライバーも活躍しやすい。

●事例の概要

過疎化が進む丹後町宇川地区では、小売店等の生活に欠かせない施設の撤退が相次いでおり、最寄りのスーパーまで車で20分、総合病院や駅まで30分を要し、自動車の運転ができない高齢者にとっては移動が大きな課題となっている。

同NPOでは、公共交通空白地有償運送制度を活用して、地域住民が自家用車で地域住民のドライバーとなる「ささえ合い交通」の運行を実施している。また、利用のためのシステムとして、スマートフォンでの配車アプリによる利用者とドライバーのマッチングシステムを活用しており、先進的な取組を展開している。スマートフォンを保有してない利用者においても、電話での受付にも応じており、柔軟な運行体制をおいている。同NPOでは、地域住民だけでなく、京丹後市外からの観光客のドライバーとしての役割も担っており、観光振興にも貢献している。

スマートフォンでのアプリの配車画面であり、車が迎えに来るルートと近づいてくるのが一目でわかる。

●評価のポイント

京丹後市は、海の恵みと里の恵みに溢れる日本海に面した自治体である。冬季の積雪は暮らしに大きな影響を与えているが、一方で、新鮮なカニや魚介類、フルーツなどの魅力的な食に溢れている。そのせいか100歳を超えても元気に暮らしている方が多いのも特徴である。

NPO法人「気張る！ふるさと丹後町」は、京丹後市の旧丹後町において公共交通空白地有償運送に取り組む団体であり、この「ささえ合い交通」では民間のUberが提供するシステムを使っていることが特徴である。基本的にはタブレットやスマートフォンで利用に必要な操作をするが、それが出来ない高齢者のために電話でも対応している。登録しているドライバーは１８名（令和２年時点）で、各自が運転できるタイミングでシステムを「オン」にし、呼び出しを受け付けている。運行管理もドライバーがスマートフォンのアプリで実施している。ドライバーは稼げるものではなく、基本的にはボランティアベースで運用されているが、有償であるために逆に利用者側の頼みづらさも回避出来ている。

京丹後市では、この「ささえ合い交通」だけでなく、公共交通全体に様々な工夫がなされており、「ささえ合い交通」はその一部として機能している。例えば、「ささえ合い交通」が機能している丹後町においては、上限200円の市営のデマンドバスが隔日で地区内の交通を支えており、NPO法人はデマンドバスの運用業務も受託している。「ささえ合い交通」は民間路線バスのバス停までの運行や、デマンドバスの非運行日など、需要と供給の隙間を埋める形で機能している。また、京丹後市全体で見ると民間のバスや鉄道（WILLER TRAINS、丹後海陸交通）など、民間と市とNPOが三位一体となりながら、公共交通の持続性を支えているのが特徴である。この多層的な公共交通の仕組みがさらに発展してゆくことを期待したい。

アプリが世界の多言語に対応しているので、外国人旅行者が乗車しても通訳が不要で送迎できる。

ドライバーへの安全運転講習や日頃の運行における問題点等を聞くため、定期的にドライバー会議を開催。

宇川加工所の地産農産物・海産物を加工したバイキング行事など地域イベントと連携し、高齢者が参加しやすいよう移動を手助けしている。

DATA 京都府 京丹後市（きょうたんごし）

団体名▶ＮＰＯ法人「気張る！ふるさと丹後町」
所在地▶〒627-0201 京都府京丹後市丹後町間人2026番地
連絡先▶ TEL：090-5052-5963
E-mail：info@kibaru-furusato-tango.org
URL：http://kibaru-furusato-tango.org/

【交通のご案内】
自動車▶京都縦貫自動車道　京丹後大宮ICから約15分
鉄　道▶JR山陰本線、京都丹後鉄道を利用
京都駅から峰山駅まで約2時間30分
峰山駅から車で約5分

● 国勢調査人口　（単位：人）

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
京丹後市	80,106	72,966	65,578	62,723	59,038	55,054

●人口増減率　（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
京丹後市	-31.3	-24.5	-16.0	-12.2	-6.7

● 高齢者・若年者比率（H27年）　（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
京丹後市	35.3	10.2

全国過疎地域自立促進連盟 会長賞

くまもと☆農家ハンター

「地域と畑は自分たちで守る」農家ハンター☆プロジェクト

農家ハンター合宿での集合写真。

●事例の概要

「地域と畑は自分たちで守る」を合い言葉に、100 人を超える若手農家が中心となって地域課題となっている鳥獣対策に取り組んでいる。

2016 年にイノシシ被害で離農するといった農家の声を聞いたことがきっかけで活動を開始。罠や IoT 機器の無償貸与、講習会を開催することにより、農家の鳥獣対策への意識を向上させ、農家自らが対策を行える仕組みづくりを行っている。また、企業等の協力を得て AI などの技術開発に取り組み、ICT 等技術を活用した効率的な鳥獣対策を行っている。

さらに、捕獲したイノシシを地域資源として活用すべく、解体加工場「ジビエファーム」において、ジビエとしての出荷をはじめており、ソーシャルビジネスへと発展している。また、熊本県内高校とのジビエ食品開発や、箱罠製作にも取り組んでおり、産学官協働の鳥獣対策が実施されている。

みかん畑に設置した箱罠にかかったイノシシ。捕獲情報はスマートフォンで確認できるため、素早く処理ができる。

●評価のポイント

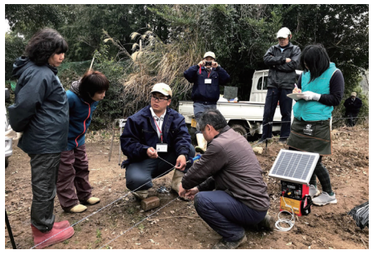
熊本県の中央部に位置する宇城市の基幹産業は農業で、平坦地、中山間地域、半島地域において、それぞれの特徴を生かした農業を展開している。明治時代に築港され、全国屈指の貿易港として栄えた三角西港を有し、有明海と八代海に挟まれた宇土半島の先端地区に位置する同市三角町は、柑橘類や花きの産地として高い評価を得ている地区である。

この地区で幼い頃から同級生として育った２人をリーダーに熊本県内の専業農家 120 人により構成され、「地域と畑は自分たちで守る」をモットーに活動しているのが「くまもと☆農家ハンター」だ。

同団体は、深刻化するイノシシによる農作物の被害に苦しむ農家を守ろうと 2016 年から活動を始めた。イノシシを取るための箱罠などの購入資金は、補助金に頼らずにクラウドファンディングで資金調達をするなど、自走できる自立した取り組みからスタートし、その後、取り組みを応援したいという行政側からの申し出で支援を得た。現在は行政、企業などと連携し、ICT 技術を積極的に開発、導入しながら事業を多角化し、展開を広げている。

同団体の評価される点は、取り組みの内容にとどまらない。学生時代に農家ハンターの考え方に賛同してクラウドファンディングに出資したことがきっかけで宇城市に I ターンをし、現在は活動の中核を担っている若者の参画など、半農半猟と、農業と鳥獣対策の両立を目指し、命をいただくことの義務や責任と向き合いながら、努力して地域との信頼関係を築いてきた農家ハンターの取り組みは、人を引き寄せる魅力に溢れている。自分たちが地域を守るという意識とともに、地域を守り、元気にする担い手を育てる姿勢も高く評価したい。地域の希望の星となるべく活動している取り組みが、同じ悩みを抱えた他の地域の希望となる未来も明るく見えた。

今後の課題は、ジビエとしての食用には適さない部位のペットフード利用や堆肥化、石鹸やマスク入れの商品化などのビジネスとしての取り組みはまだ始まったばかりであるという点から、実際に計画通りのビジネス展開ができるのか、今後の実現可能性にも注目していきたい。


イノシシが入らないように電気柵の設置の仕方を学ぶ研修会の様子。

国、市、銀行からの支援により 2019 年に完成したジビエ☆ファーム。２０２０年よりジビエの出荷を始めており、地域資源を活かしながら雇用を生み出す好循環なビジネスモデルを展開。

三角地域で捕獲したイノシシのスモークハム。

DATA 熊本県 宇城市（うきし）

団体名▶くまもと☆農家ハンター
所在地▶〒 869-3203 熊本県宇城市三角町戸馳 397 番地
連絡先▶ TEL：0964-53-0752　FAX：0964-52-4246
E-mail：kumamotohunter@gmail.com
URL：https://farmer-hunter.com/

【交通のご案内】
自動車▶九州自動車道
益城熊本 IC から松橋ⅠCまで 12 分　松橋ⅠCから 60 分
八代 IC から松橋ⅠCまで 12 分　松橋ⅠCから 60 分
国道３号線　熊本市から 100 分／八代市から 100 分
鉄　道▶ JR 鹿児島本線、JR 三角線を利用
熊本駅から宇土駅まで 13 分
宇土駅から三角駅まで 37 分

● 国勢調査人口　（単位：人）

市町村名	昭和 35 年	昭和 55 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
宇城市（旧）三角町	17,349	13,271	10,305	9,697	8,589	7,719

●人口増減率　（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
宇城市（旧）三角町	-55.5	-41.8	-25.1	-20.4	-10.1

● 高齢者・若年者比率（H27 年）　（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
宇城市（旧）三角町	41.5	9.9

全国過疎地域自立促進連盟 会長賞

美里フットパス協会

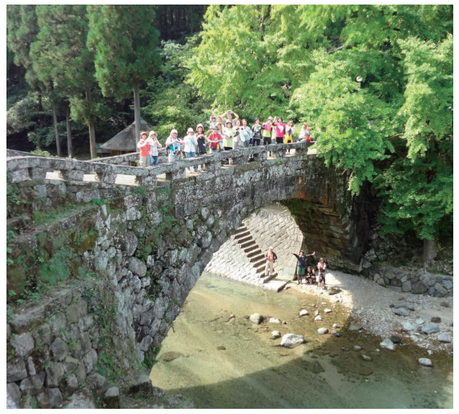
地域を元気にする魔法フットパス
～交流人口を増やすから Walkers are Welcome へ～

のどかな里山の田舎道を歩く、白石野里山コース。コースの清掃は地元住民によって自発的に行われている。

●事例の概要

美里フットパス協会では、町内 15 か所にフットパスコースを設け、定期的にイベントの開催やコースの提供を行っており、併せてフットパスマップやタオルなどのグッズの販売や地元産品を使ったフットパス弁当の提供を行っている。

また、定期的なイベントの開催だけでなく、自主的にコースを歩きに来る人を増やすことにも力を入れている。コースの草刈りなどの維持管理や景観・休憩箇所の整備等は地域住民らが自ら行っており、歩きに来た人と地域住民との交流が生まれているとともに、交流そのものが地域住民の自主的な活動にも繋がっている。これまで美里町は地理的条件により、観光客の滞在時間が短い傾向であったが、フットパスコースを歩くという目的により、滞在時間延長が実現し、観光面だけではなく、商業機会の向上にも寄与している。



季節によってハートの形ができる「恋人の聖地」として知られている二俣橋。現在１５コースが美里地域で楽しめる。

●評価のポイント

熊本県のほぼ中央に位置する熊本県美里町は、町の西部に一部平坦地が見られ、東部に向けて森林と棚田、里山が広がる中山間地域で、通潤橋や高千穂といった観光地への通過点に留まってしまうという課題を有していた。

その中で、現在の美里フットパス協会の中心を担う２名が、施設やイベントに留まらず、美里が目的地となる価値を伝え、交流人口を増やしたいという想いから、フットパスの導入を検討し始めた。美里 NPO ホールディングス、美里町商工会、地域住民の若手等とともに勉強会を開催。町内のいいところを「よかとこ写真館」として募集し、現地に足を運び、地元の人たちから話を聞きながら、３年間で 15 コースを整備、マップも作成した。また、美里町商工会との連携は、イベントの実施や、グッズの作成、フットパス弁当の提供を通して、「歩き」での滞在を地域経済につなぐ機会に活かされている。

美里フットパス協会では、時間をかけて、資源を活かし、住民の意識が変わっていくプロセスを大事にして、フットパスを手段とした地域づくりを意識してきた。地元住民には、フットパスのコースづくりや来訪者との会話を通して、関わり合う楽しさに気づき、日常にある資源や暮らしの価値を再発見する機会が生まれている。このような地域づくりへの入口がうまく用意されることで、地域の人たちから来訪者に対して自発的に声掛けをしたり、縁側カフェを開いておもてなしの場を用意したり、地域の共同作業である草刈りや花植えへの意識を高め、ひいては集落の自治力も高まってきたという。

美里町内では今やフットパスが町内の共通言語となり、フットパスには人をつなぎ、活かす力があることが実感されつつある。このような美里式フットパスは、誰もが参加できる地域づくりのアプローチとして注目されるとともに、その動きを一過性ものに終わらせないためにも、熊本県内では、Walkers are welcome（WaW）くまもとネットワークが発足し、また九州一円では、フットパスネットワーク九州の設立にも至っている。10 年をかけた美里町の経験知は、今日では各地域独自のオーダーメイド型のフットパスを生み出し、相互に高め合うネットワークづくりにも寄与している。

このようにフットパスというシンプルな手段でありながら、地域内外の交流を通じて、過疎地域において「ここに暮らす意味」を改めて刻み直す大事な取り組みとして、美里町の実践を高く評価したい。

上井出コースを歩く様子。最近では、ガイドマップを購入し、少人数歩くセルフ参加者も増えており、フットパスの浸透が伺える。

下福良コースから見える棚田が映える夕日の景色。

小崎棚田コースの最高地点から撮られた一枚。棚田の石垣がペルーのマチュピチュ遺跡に似ていることから、「美里のマチュピチュ」と呼ばれている。都会からかけ離れた景色に歩きに来た人たちも驚かされる。

DATA 熊本県美里町（みさとまち）

団体名▶美里フットパス協会
所在地▶〒 861-4405 熊本県下益城郡美里町萱野 1532
連絡先▶ TEL：0964-53-9662　FAX：0964-53-9662
E-mail：mfa@town-misato.net
URL：https://misatofp.jimodofree.com/

【交通のご案内】

自動車▶九州自動車道　松橋ＩＣより約 20 分
九州自動車道　小池高山ＩＣより約 25 分
熊本市より約 45 分　国道 218 号線沿
鉄　道▶ JR 九州鹿児島本線を利用
九州松橋駅から車で約 25 分
飛行機▶阿蘇くまもと空港より車で約 45 分

● 国勢調査人口　（単位：人）

市町村名	昭和 35 年	昭和 55 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
美里町	21,693	14,727	12,969	12,254	11,388	10,333

●人口増減率　（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
美里町	-52.4	-29.8	-20.3	-15.7	-9.3

● 高齢者・若年者比率（H27 年）　（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
美里町	41.7	9.3

総務大臣賞　平成２～令和元年度　過疎地域自立活性化優良事例表彰

受賞団体一覧（年度別）（平成 12 年度までは、国土庁長官賞）

年度	都道府県	団体名	市町村等名
平成2年度	福島県	飯舘村	
	福井県	和泉村シャンソン村運営委員会	和泉村
	長野県	八坂村	
	高知県	大川村	
	大分県	姫島村	
	宮崎県	南郷村	
平成3年度	北海道	置戸町	
	群馬県	川場村	
	兵庫県	但東町	
	島根県	仁多町	
	長崎県	美津島町	
	鹿児島県	祁答院町	
平成4年度	北海道	鷹栖町	
	秋田県	皆瀬村	
	群馬県	上野村	
	山口県	本郷村	
	福岡県	矢部村	
	沖縄県	伊江村	
平成5年度	北海道	上湧別町	
	福島県	常葉町	
	京都府	美山町	
	和歌山県	清水町	
	岡山県	東粟倉村	
	大分県	天瀬町	
平成6年度	岐阜県	河合村	
	奈良県	野迫川村	
	広島県	三和町	
	徳島県	上勝町・勝浦郡農協上勝彩部会	
	高知県	梼原町	
	宮崎県	綾町	
平成7年度	岩手県	藤沢町	
	新潟県	入広瀬村	
	兵庫県	五色町	
	佐賀県	七山村	
	沖縄県	竹富町	
平成8年度	岩手県	東和町	
	山梨県	芦安村	
	長野県	飯山市	
	広島県	高宮町	
	愛媛県	日吉村	
平成9年度	北海道	新得町	
	福島県	昭和村	
	新潟県	板倉町寺野ユートピア実行委員会	板倉町
	島根県	金城町	
	熊本県	東陽村	
平成10年度	山形県	西川町	
	富山県	山田村	
	兵庫県	朝来町	
	宮崎県	椎葉村	
	沖縄県	北大東村	
平成11年度	福島県	西会津町	
	静岡県	本川根町	
	鳥取県、島根県、岡山県、広島県	中国山地県境市町村連絡協議会	
	高知県	中土佐町	
	鹿児島県	宮之城町	
平成12年度	宮城県	登米町	
	山梨県	身延町、身延駅前しょうにん通り商業協同組合	
	岐阜県	明宝村	
	京都府	日吉町	
	宮崎県	西米良村	
平成13年度	新潟県	越後田舎体験推進協議会	東頸郡
	山梨県	早川町	
	島根県	石見町	
	大分県	久住町	
平成14年度	山形県	立川町	
	千葉県	富浦町	
	鳥取県	智頭町	
平成15年度	岩手県	沢内村	
	新潟県	山北町	
	宮崎県	諸塚村	
平成16年度	新潟県	高柳町	
	和歌山県	中辺路町森林組合	中辺路町
	沖縄県	東村	
平成17年度	北海道	しもかわアイスキャンドルミュージアム実行委員会	下川町
	福島県	飯舘村	
	徳島県	三好町	
	熊本県	水俣市久木野地域振興会	水俣市
	大分県	大分大山町農業協同組合	日田市
平成18年度	北海道	清里町及び清里町花と緑と交流のまちづくり委員会	
	宮城県	鳴子ツーリズム研究会	大崎市
	新潟県	魚沼市	
	熊本県	財団法人学びやの里	小国町
平成19年度	福島県	三島町	
	新潟県	高根フロンティアクラブ	朝日村
	奈良県	十津川鼓動の会	十津川村
	高知県	森の巣箱運営委員会	津野町
	大分県	株式会社つえエービー	日田市
平成20年度	福島県	元気な川内を創る会	川内村
	石川県	NPO 法人 やすらぎの里 金蔵（かなくら）学校	輪島市
	兵庫県	農村歌舞伎「葛畑座」	養父市
	島根県	奥出雲町	
	沖縄県	伊是名村	
平成21年度	福島県	特定非営利活動法人 ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会	二本松市
	長野県	木曽広域連合	
	和歌山県	田辺市	
	熊本県	水俣市	
平成22年度	北海道	下川町	
	静岡県	特定非営利活動法人 戸田どっとこむ	沼津市
	高知県	株式会社 大宮産業	四万十市
	鹿児島県	特定非営利活動法人 プロジェクト南からの潮流	南さつま市
平成23年度	岩手県	葛巻町	
	島根県	谷自治振興会	飯南町
	愛媛県	株式会社 しまの会社	上島町
平成24年度	群馬県	神流マウンテンラン＆ウォーク実行委員会	神流町
	石川県	株式会社 のろし	珠洲市
	愛知県	田峰観音奉納歌舞伎谷高座	設楽町
	島根県	邑南町	
平成25年度	新潟県	株式会社　あいポート仙田	十日町市
	愛知県	特定非営利活動法人　てほへ	東栄町
	島根県	江津市	
	徳島県	特定非営利活動法人　グリーンバレー	神山町
平成26年度	岐阜県	特定非営利活動法人　飛騨小坂 200 滝	下呂市
	三重県	島の旅社推進協議会	鳥羽市
	島根県	益田市真砂地区	益田市
	鹿児島県	特定非営利活動法人　頴娃おこそ会	南九州市
平成27年度	宮城県	くりはらツーリズムネットワーク	栗原市
	島根県	雲南市	
	岡山県	あば村運営協議会	津山市
	長崎県	一般社団法人　南島原ひまわり観光協会	南島原市
平成28年度	青森県	八戸市	
	新潟県	公益社団法人 中越防災安全推進機構 ムラビト・デザインセンター	長岡市
	奈良県	公益財団法人　吉野川紀の川源流物語	川上村
	岡山県	宇治地域まちづくり推進委員会	高梁市
	鹿児島県	特定非営利活動法人　Lab 蒲生郷	始良市
平成29年度	新潟県	特定非営利活動法人　越後妻有里山協働機構	十日町市
	岐阜県	郡上市	
	徳島県	丹生谷　清流座	那賀町
	佐賀県	唐津市相知町　蕨野集落	唐津市
	鹿児島県	日置市高山地区公民館	日置市
平成30年度	北海道	特定非営利活動法人　上士幌コンシェルジュ	上士幌町
	静岡県	企業組合 くれば	島田市
	広島県	青河自治振興会	三次市
	山口県	周防大島町	
令和元年度	青森県	プロジェクトおおわに事業協同組合	大鰐町
	静岡県	企業組合であい村蔵ら	松崎町
	和歌山県	天野の里づくりの会	かつらぎ町
	鹿児島県	特定非営利活動法人子育てふれあいグループ自然花	枕崎市

受賞団体一覧（都道府県別）（平成 12 年度までは、国土庁長官賞）

都道府県	年度	団体名	市町村等名
北海道	平成3年度	置戸町	
	平成4年度	鷹栖町	
	平成5年度	上湧別町	
	平成9年度	新得町	
	平成17年度	しもかわアイスキャンドルミュージアム実行委員会	下川町
	平成18年度	清里町及び清里町花と緑と交流のまちづくり委員会	
	平成22年度	下川町	
	平成30年度	特定非営利活動法人　上士幌コンシェルジュ	上士幌町
青森県	平成28年度	八戸市	
	令和元年度	プロジェクトおおわに事業協同組合	大鰐町
岩手県	平成7年度	藤沢町	
	平成8年度	東和町	
	平成15年度	沢内村	
	平成23年度	葛巻町	
宮城県	平成12年度	登米町	
	平成18年度	鳴子ツーリズム研究会	大崎市
	平成27年度	くりはらツーリズムネットワーク	栗原市
秋田県	平成4年度	皆瀬村	
山形県	平成10年度	西川町	
	平成14年度	立川町	
福島県	平成2年度	飯舘村	
	平成5年度	常葉町	
	平成9年度	昭和村	
	平成11年度	西会津町	
	平成17年度	飯舘村	
	平成19年度	三島町	
	平成20年度	元気な川内を創る会	川内村
	平成21年度	特定非営利活動法人 ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会	二本松市
群馬県	平成3年度	川場村	
	平成4年度	上野村	
	平成24年度	神流マウンテンラン＆ウォーク実行委員会	神流町
千葉県	平成14年度	富浦町	
新潟県	平成7年度	入広瀬村	
	平成9年度	板倉町寺野ユートピア実行委員会	板倉町
	平成13年度	越後田舎体験推進協議会	東頸郡
	平成15年度	山北町	
	平成16年度	高柳町	
	平成18年度	魚沼市	
	平成19年度	高根フロンティアクラブ	朝日村
	平成25年度	株式会社　あいポート仙田	十日町市
	平成28年度	公益社団法人中越防災安全推進機構　ムラビト・デザインセンター	長岡市
	平成29年度	特定非営利活動法人　越後妻有里山協働機構	十日町市
富山県	平成10年度	山田村	
石川県	平成20年度	NPO 法人 やすらぎの里　金蔵（かなくら）学校	輪島市
	平成24年度	株式会社 のろし	珠洲市
福井県	平成2年度	和泉村シャンソン村運営委員会	和泉村
山梨県	平成8年度	芦安村	
	平成12年度	身延町、身延駅前しょうにん通り商業協同組合	
	平成13年度	早川町	
長野県	平成2年度	八坂村	
	平成8年度	飯山市	
	平成21年度	木曽広域連合	
岐阜県	平成6年度	河合村	
	平成12年度	明宝村	
	平成26年度	特定非営利活動法人　飛騨小坂 200 滝	下呂市
	平成29年度	郡上市	
静岡県	平成11年度	本川根町	
	平成22年度	特定非営利活動法人 戸田どっとこむ	沼津市
	平成30年度	企業組合　くれば	島田市
	令和元年度	企業組合であい村蔵ら	松崎町
愛知県	平成24年度	田峰観音奉納歌舞伎谷高座	設楽町
	平成25年度	特定非営利活動法人　てほへ	東栄町
三重県	平成26年度	島の旅社推進協議会	鳥羽市
京都府	平成5年度	美山町	
	平成12年度	日吉町	
兵庫県	平成3年度	但東町	
	平成7年度	五色町	
	平成10年度	朝来町	
	平成20年度	農村歌舞伎「葛畑座」	養父市

都道府県	年度	団体名	市町村等名
奈良県	平成6年度	野迫川村	
	平成19年度	十津川鼓動の会	十津川村
	平成28年度	公益財団法人　吉野川紀の川源流物語	川上村
和歌山県	平成5年度	清水町	
	平成16年度	中辺路町森林組合	中辺路町
	平成21年度	田辺市	
	令和元年度	天野の里づくりの会	かつらぎ町
鳥取県	平成14年度	智頭町	
島根県	平成3年度	仁多町	
	平成9年度	金城町	
	平成13年度	石見町	
	平成20年度	奥出雲町	
	平成23年度	谷自治振興会	飯南町
	平成24年度	邑南町	
	平成25年度	江津市	
	平成26年度	益田市真砂地区	益田市
	平成27年度	雲南市	
岡山県	平成5年度	東粟倉村	
	平成27年度	あば村運営協議会	津山市
	平成28年度	宇治地域まちづくり推進委員会	高梁市
広島県	平成6年度	三和町	
	平成8年度	高宮町	
	平成30年度	青河自治振興会	三次市
鳥取県、島根県、岡山県、広島県	平成11年度	中国山地県境市町村連絡協議会	
山口県	平成4年度	本郷村	
	平成30年度	周防大島町	
徳島県	平成6年度	上勝町・勝浦郡農協上勝彩部会	
	平成17年度	三好町	
	平成25年度	特定非営利活動法人　グリーンバレー	神山町
	平成29年度	丹生谷　清流座	那賀町
愛媛県	平成8年度	日吉村	
	平成23年度	株式会社 しまの会社	上島町
高知県	平成2年度	大川村	
	平成6年度	梼原町	
	平成11年度	中土佐町	
	平成19年度	森の巣箱運営委員会	津野町
	平成22年度	株式会社 大宮産業	四万十市
福岡県	平成4年度	矢部村	
佐賀県	平成7年度	七山村	
	平成29年度	唐津市相知町　蕨野集落	唐津市
長崎県	平成3年度	美津島町	
	平成27年度	一般社団法人南島原ひまわり観光協会	南島原市
熊本県	平成9年度	東陽村	
	平成17年度	水俣市久木野地域振興会	水俣市
	平成18年度	財団法人学びやの里	小国町
	平成21年度	水俣市	
大分県	平成2年度	姫島村	
	平成5年度	天瀬町	
	平成13年度	久住町	
	平成17年度	大分大山町農業協同組合	日田市
	平成19年度	株式会社つえエービー	日田市
宮崎県	平成2年度	南郷村	
	平成6年度	綾町	
	平成10年度	椎葉村	
	平成12年度	西米良村	
	平成15年度	諸塚村	
鹿児島県	平成3年度	祁答院町	
	平成11年度	宮之城町	
	平成22年度	特定非営利活動法人 プロジェクト南からの潮流	南さつま市
	平成26年度	特定非営利活動法人　頴娃おこそ会	南九州市
	平成28年度	特定非営利活動法人　Lab 蒲生郷	始良市
	平成29年度	日置市高山地区公民館	日置市
	令和元年度	特定非営利活動法人子育てふれあいグループ自然花	枕崎市
沖縄県	平成4年度	伊江村	
	平成7年度	竹富町	
	平成10年度	北大東村	
	平成16年度	東村	
	平成20年度	伊是名村	

全国過疎地域自立促進連盟 会長賞

平成３～令和元年度　過疎地域自立活性化優良事例表彰

受賞団体一覧（年度別）（平成 11 年度までは、全国過疎地域活性化連盟会長賞）

年度	都道府県	団体名	市町村等名
平成3年度	青森県	市浦村	
	長野県	株式会社小川の庄	小川村
	愛知県	足助町緑の村協会	
	三重県	飯高町	
	徳島県	井川町	
平成4年度	岩手県	山形村	
	山梨県	小菅村	
	岐阜県	白川町	
	愛媛県	松野町	
	熊本県	泉村	
平成5年度	青森県	稲垣村	
	岩手県	住田町	
	富山県	山田村	
	香川県	池田町	
	長崎県	新魚目町	
平成6年度	北海道	サンセット王国	羽幌町
	北海道	鹿追町	
	宮城県	鷺沢町	
	長野県	開田村	
	石川県	吉野谷村	
	熊本県	清和村	
平成7年度	福島県	檜枝岐村	
	石川県	中島町	
	長野県	南信濃村	
	岡山県	美甘村	
	長崎県	長崎大島醸造株式会社	大島町
平成8年度	北海道	生田原町	
	滋賀県	朽木村	
	島根県	西ノ島町	
	長崎県	鷹島町	
	沖縄県	上野村	
平成9年度	秋田県	岩城町	
	茨城県	美和村	
	石川県	柳田村	
	岐阜県	馬瀬村	
	鹿児島県	里村	
平成10年度	北海道	新冠町	
	岩手県	大東町	
	千葉県	和田町	
	岡山県	加茂川町	
	長崎県	高島町	
平成11年度	北海道	丸瀬布町	
	秋田県	大森町	
	三重県	宮川村	
	大分県	直入町	
平成12年度	北海道	歴史を生かしたまちづくりネットワーク推進協議会	江差町、上ノ国町、松前町
	石川県	白峰村	
	山口県	豊田町	
	徳島県	日和佐町	
平成13年度	石川県	珠洲市	
	鳥取県	株式会社まちづくり日野	日野町
	広島県	作木村	
	熊本県	菅地域振興会	矢部町
平成14年度	北海道	浜益小劇場	浜益村
	静岡県	妻良観光協会及び 子浦観光協会	南伊豆町
	和歌山県	美山村	
	広島県	永野を考える会	神石町
	愛媛県	河辺村	
	沖縄県	南大東村	
平成15年度	北海道	常呂カーリング協会	常呂町
	宮城県	食の博物館実行委員会	加美町
	鳥取県	日南町	
	広島県	NPO 法人 INE OASA	大朝町
	徳島県	勝浦町	

年度	都道府県	団体名	市町村等名
平成16年度	秋田県	西木村	
	山形県	尾花沢市	
	鳥取県	佐治村	
	大分県	豊後高田商工会議所	豊後高田市
平成17年度	青森県	NPO 法人グリーンエネルギー青森	鰺ヶ沢町
	京都府	久美浜百珍の会	京丹後市
	島根県	日南川交流会	邑南町
	愛媛県	宮窪水産研究会	今治市
平成18年度	奈良県	曽爾村	
	山口県	大潮地区活性化推進協議会	周南市
	高知県	土佐れいほく農業協同組合	土佐町
	宮崎県	串間市笠祇地区	
	鹿児島県	山ケ野金山文化財保護活用実行委員会	霧島市
平成19年度	北海道	標津町	
	島根県	武良づくり企画実行委員会	隠岐の島町
	福岡県	添田町観光ガイドボランティア	添田町
平成20年度	青森県	津軽鉄道サポーターズクラブ	五所川原市
	長野県	株式会社 まちづくり木曽福島	木曽町
	大分県	株式会社 夢のぼり工房	杵築市
平成21年度	長野県	栄村	
	徳島県	美郷商工会	吉野川市
	沖縄県	ぐすくべグリーンツーリズムさるかの会合同会社	宮古島市
平成22年度	長野県	財団法人 妻籠を愛する会	南木曽町
	岐阜県	社会福祉法人 高山市社会福祉協議会	高山市
平成23年度	北海道	素敵な過疎づくり　株式会社	厚沢部町
	島根県	株式会社　萩の会	益田市
	宮崎県	戸川地区石垣の村管理組合	日之影町
平成24年度	北海道	鹿追町	
	宮城県	NPO 法人 ひっぽ UI ターンネット	丸森町
	愛知県	豊根村	
	広島県	生桑振興会	安芸高田市
平成25年度	福島県	会津山都そば協会	喜多方市
	岐阜県	特定非営利活動法人　奥矢作森林塾	恵那市
	長崎県	雪浦ウィーク実行委員会	西海市
	長崎県	若松ふるさと塾	新上五島町
	熊本県	寄ろ会みなまた	水俣市
	鹿児島県	一般社団法人　なかわり生姜山農園	西之表市
平成26年度	三重県	ビジョン早田実行委員会	尾鷲市
	徳島県	もんてこい丹生谷運営委員会	那賀町
平成27年度	福島県	一般社団法人　IORI 倶楽部	三島町
	広島県	田幸ふるさとランチグループ	三次市
	香川県	五名活性化協議会	東かがわ市
	鹿児島県	大野地区公民館	垂水市
平成28年度	長野県	特定非営利活動法人　ふるさと	長野市
	静岡県	特定非営利活動法人 がんばらまいか佐久間	浜松市
	奈良県	特定非営利活動法人　うちのの館	五條市
	和歌山県	真田いこい茶屋	九度山町
平成29年度	福井県	池田町	
	愛知県	一般社団法人　おいでん・さんそん	豊田市
	愛媛県	四国西予ジオパーク推進協議会	西予市
平成30年度	岡山県	中和地域づくり委員会	真庭市
	岡山県	梶並地区活性化推進委員会	美作市
	山口県	特定非営利活動法人 ゆうゆうグリーン俵山	長門市
	徳島県	四国の秘境　山城・大歩危妖怪村	三好市
	愛媛県	まちづくり学校双海人	伊予市
令和元年度	北海道	夕張市	
	青森県	わきのさわ温泉湯好会	むつ市
	奈良県	NPO 法人五新線再生推進会議	五條市
	奈良県	株式会社黒滝森物語村	黒滝村
	島根県	GOTO ☆ワンハート	江津市

受賞団体一覧（都道府県別）（平成 11 年度までは、全国過疎地域活性化連盟会長賞）

都道府県	年度	団体名	市町村等名
北海道	平成6年度	サンセット王国	羽幌町
	平成6年度	鹿追町	
	平成8年度	生田原町	
	平成10年度	新冠町	
	平成11年度	丸瀬布町	
	平成12年度	歴史を生かしたまちづくりネットワーク推進協議会	江差町、上ノ国町、松前町
	平成14年度	浜益小劇場	浜益村
	平成15年度	常呂カーリング協会	常呂町
	平成19年度	標津町	
	平成23年度	素敵な過疎づくり　株式会社	厚沢部町
	平成24年度	鹿追町	
	令和元年度	夕張市	
青森県	平成3年度	市浦村	
	平成5年度	稲垣村	
	平成17年度	NPO 法人グリーンエネルギー青森	鰺ヶ沢町
	平成20年度	津軽鉄道サポーターズクラブ	五所川原市
	令和元年度	わきのさわ温泉湯好会	むつ市
岩手県	平成4年度	山形村	
	平成5年度	住田町	
	平成10年度	大東町	
宮城県	平成6年度	鷺沢町	
	平成15年度	食の博物館実行委員会	加美町
	平成24年度	NPO 法人 ひっぽ UI ターンネット	丸森町
秋田県	平成9年度	岩城町	
	平成11年度	大森町	
	平成16年度	西木村	
山形県	平成16年度	尾花沢市	
福島県	平成7年度	檜枝岐村	
	平成25年度	会津山都そば協会	喜多方市
	平成27年度	一般社団法人　IORI 倶楽部	三島町
茨城県	平成9年度	美和村	
千葉県	平成10年度	和田町	
富山県	平成5年度	山田村	
石川県	平成6年度	吉野谷村	
	平成7年度	中島町	
	平成9年度	柳田村	
	平成12年度	白峰村	
	平成13年度	珠洲市	
福井県	平成29年度	池田町	
山梨県	平成4年度	小菅村	
長野県	平成3年度	株式会社小川の庄	小川村
	平成6年度	開田村	
	平成7年度	南信濃村	
	平成20年度	株式会社 まちづくり木曽福島	木曽町
	平成21年度	栄村	
	平成22年度	財団法人 妻籠を愛する会	南木曽町
	平成28年度	特定非営利活動法人　ふるさと	長野市
岐阜県	平成4年度	白川町	
	平成9年度	馬瀬村	
	平成22年度	社会福祉法人 高山市社会福祉協議会	高山市
	平成25年度	特定非営利活動法人　奥矢作森林塾	恵那市
静岡県	平成14年度	妻良観光協会及び 子浦観光協会	南伊豆町
	平成28年度	特定非営利活動法人　がんばらまいか佐久間	浜松市
愛知県	平成3年度	足助町緑の村協会	
	平成24年度	豊根村	
	平成29年度	一般社団法人　おいでん・さんそん	豊田市
三重県	平成3年度	飯高町	
	平成11年度	宮川村	
	平成26年度	ビジョン早田実行委員会	尾鷲市
滋賀県	平成8年度	朽木村	
京都府	平成17年度	久美浜百珍の会	京丹後市

都道府県	年度	団体名	市町村等名
奈良県	平成18年度	曽爾村	
	平成28年度	特定非営利活動法人　うちのの館	五條市
	令和元年度	NPO 法人五新線再生推進会議	五條市
	令和元年度	株式会社黒滝森物語村	黒滝村
和歌山県	平成14年度	美山村	
	平成28年度	真田いこい茶屋	九度山町
鳥取県	平成13年度	株式会社まちづくり日野	日野町
	平成15年度	日南町	
	平成16年度	佐治村	
島根県	平成8年度	西ノ島町	
	平成17年度	日南川交流会	邑南町
	平成19年度	武良づくり企画実行委員会	隠岐の島町
	平成23年度	株式会社　萩の会	益田市
	令和元年度	GOTO ☆ワンハート	江津市
岡山県	平成7年度	美甘村	
	平成10年度	加茂川町	
	平成30年度	中和地域づくり委員会	真庭市
	平成30年度	梶並地区活性化推進委員会	美作市
広島県	平成13年度	作木村	
	平成14年度	永野を考える会	神石町
	平成15年度	NPO 法人　INE　OASA	大朝町
	平成24年度	生桑振興会	安芸高田市
	平成27年度	田幸ふるさとランチグループ	三次市
山口県	平成12年度	豊田町	
	平成18年度	大潮地区活性化推進協議会	周南市
	平成30年度	特定非営利活動法人　ゆうゆうグリーン俵山	長門市
徳島県	平成3年度	井川町	
	平成12年度	日和佐町	
	平成15年度	勝浦町	
	平成21年度	美郷商工会	吉野川市
	平成26年度	もんてこい丹生谷運営委員会	那賀町
	平成30年度	四国の秘境　山城・大歩危妖怪村	三好市
香川県	平成5年度	池田町	
	平成27年度	五名活性化協議会	東かがわ市
愛媛県	平成4年度	松野町	
	平成14年度	河辺村	
	平成17年度	宮窪水産研究会	今治市
	平成29年度	四国西予ジオパーク推進協議会	西予市
	平成30年度	まちづくり学校双海人	伊予市
高知県	平成18年度	土佐れいほく農業協同組合	土佐町
福岡県	平成19年度	添田町観光ガイドボランティア	添田町
長崎県	平成5年度	新魚目町	
	平成7年度	長崎大島醸造株式会社	大島町
	平成8年度	鷹島町	
	平成10年度	高島町	
	平成25年度	雪浦ウィーク実行委員会	西海市
	平成25年度	若松ふるさと塾	新上五島町
熊本県	平成4年度	泉村	
	平成6年度	清和村	
	平成13年度	菅地域振興会	矢部町
	平成25年度	寄ろ会みなまた	水俣市
大分県	平成11年度	直入町	
	平成16年度	豊後高田商工会議所	豊後高田市
	平成20年度	株式会社 夢のぼり工房	杵築市
宮崎県	平成18年度	串間市笠祇地区	
	平成23年度	戸川地区石垣の村管理組合	日之影町
鹿児島県	平成9年度	里村	
	平成18年度	山ケ野金山文化財保護活用実行委員会	霧島市
	平成25年度	一般社団法人　なかわり生姜山農園	西之表市
	平成27年度	大野地区公民館	垂水市
沖縄県	平成8年度	上野村	
	平成14年度	南大東村	
	平成21年度	ぐすくべグリーンツーリズムさるかの会合同会社	宮古島市